チリ地震津波に関する避難動向調査

南海地震防災課

１　目　的

本年２月に発生したチリ地震により、本県沿岸部に「津波警報」が発せられた。
本県では、阿南市、牟岐町、美波町及び海陽町が「避難勧告」を発令し、地域住民に避難を促したが、避難率は低く、そのあり方に課題を残した。
そこで、避難勧告が発せられた地域に居住する住民を対象に、対象地区の自主防災組織や自治会（町内会）を通じて、避難行動等の実態を調査し、南海地震に備える行政の今後の啓発等防災対策の参考とする。

２　調査方法

（１）調査対象
阿南市、牟岐町、美波町及び海陽町において避難勧告が発令された地域に居住する住民を対象とした。

（２）配付　５７５件
調査対象地区の自主防災組織や自治会（町内会）を通じて各世帯に配付・回収した。

市町名	配付数	参考	
		避難対象世帯数	避難対象者数
阿南市	315	5,945	14,750
牟岐町	80	1,056	2,248
美波町	120	1,779	3,921
海陽町	60	405	958
計	575	9,185	21,877

（３）回収　５３８件（回収率：９３．６％）
各地域ごとに取りまとめ後、県（南海地震防災課）へ郵送。

市町名	配付数	回収数	回収率(%)
阿南市	315	308	97.8
牟岐町	80	70	87.5
美波町	120	101	84.2
海陽町	60	59	98.3
計	575	538	93.6

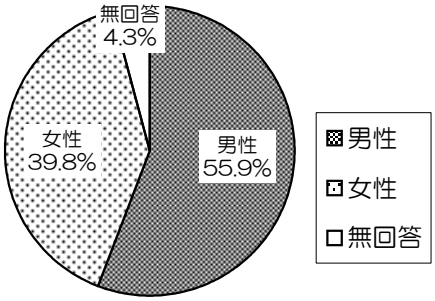
（４）調査期間
平成22年5月6日～6月20日

３　調査結果

問1　　ご回答いただく方の性別、年齢をお答え下さい。

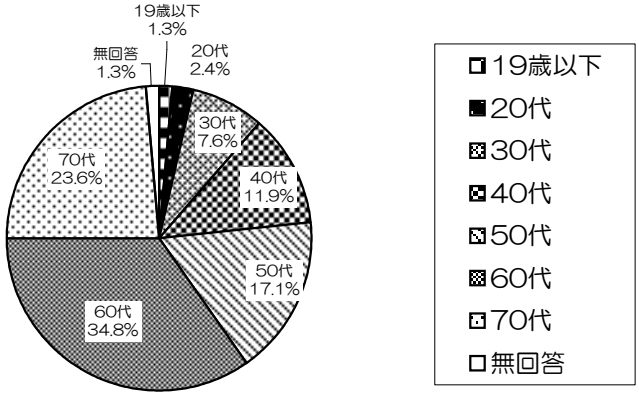
性　別	
男性	301
女性	214
無回答	23

N＝538



年　　齢	
～19歳	7
20～29歳	13
30～39歳	41
40～49歳	64
50～59歳	92
60～69歳	187
70歳～	127
無回答	7

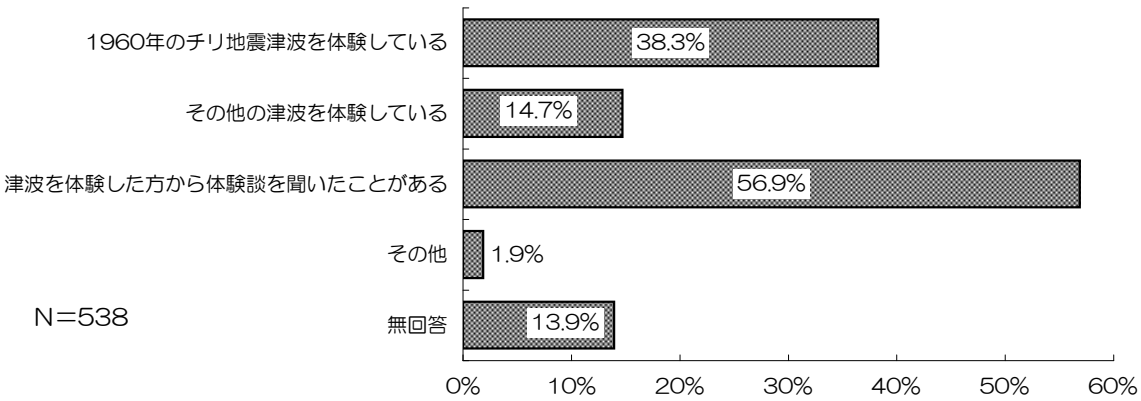
N＝538



問2　あなたの津波体験や津波に備えた自己啓発等について該当するものがあればお選び下さい。（いくつでも）

【津波体験等について】

1960年のチリ地震津波を体験している	206
その他の津波を体験している	79
津波を体験した方から体験談を聞いたことがある	306
その他	10
無回答	75



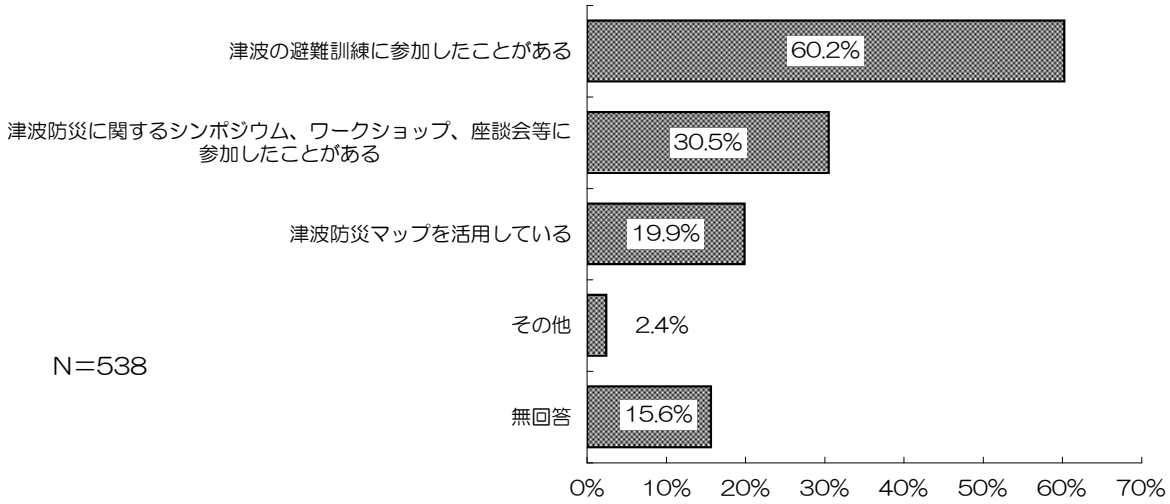
N＝538

○避難対象地区の自主防災組織や自治会（町内会）を通じて各世帯へ配付・回収した。
回収率は、９３．６％（回収数５３８／配付数５７５）であった。

○調査回答者の年齢は、５０歳以上が７５．５％（４０６人：５０歳代１７．１％、６０歳代３４．８％、７０歳以上２３．６％）となっており、このため、前回チリ地震津波（１９６０年）を３８．３％（２０６人）が体験しているという結果であった。

【津波に備えた自己啓発等について】

津波の避難訓練に参加したことがある	324
津波防災に関するシンポジウム、ワークショップ、座談会等に参加したことがある	164
津波防災マップを活用している	107
その他	13
無回答	84



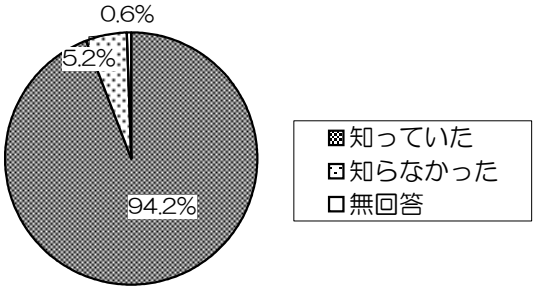
N＝538

○津波に備えた自己啓発等として、「津波の避難訓練に参加したことがある」が６０．２％（３２４人）と最も多く、次いで「津波防災に関するシンポジウム、ワークショップ、座談会等に参加したことがある」が３０．５％（１６４人）、「津波防災マップを活用している」が１９．９％（１０７人）という結果であった。

問3　あなたは、先日のチリ地震により津波警報が発表されたことを知っていましたか。

知っていた	507
知らなかった	28
無回答	3

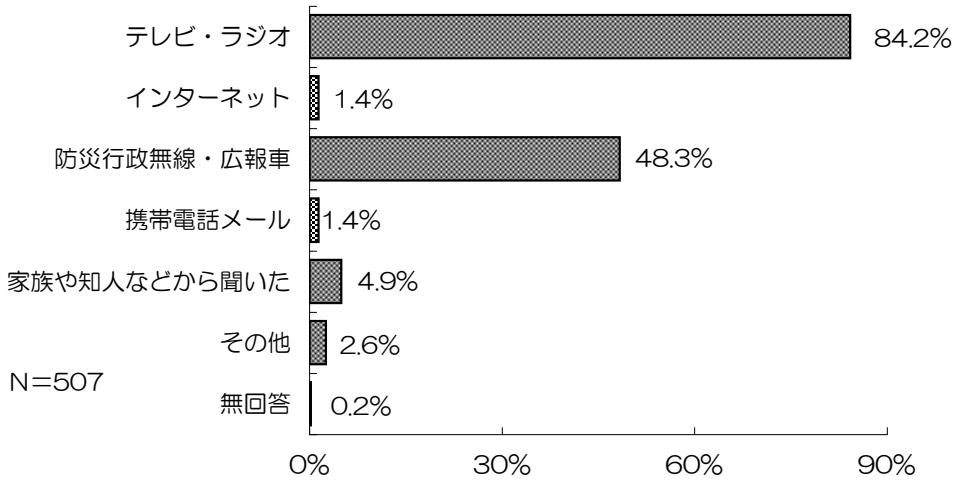
N＝538



○調査回答者（５３８人）のうち、９４．２％（５０７人）が今回のチリ地震での「津波警報」が発表されたことを知っていた。

問4　知っていたと回答された方にお聞きします。あなたはどのような手段で津波警報を知りましたか。

テレビ・ラジオ	427
インターネット	7
防災行政無線・広報車	245
携帯電話メール	7
家族や知人などから聞いた	25
その他	13
無回答	1

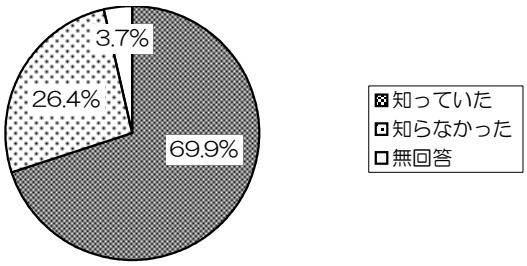


○「津波警報」を知り得た手段は、「テレビ・ラジオ」が８４．２％（４２７人）と最も多く、次いで「防災行政無線・広報車」が４８．３％（２４５人）であり、自治体からの広報で知り得た者は「津波警報」を知っていた者の４８．３％、調査回答者全体では４５．５％であった。
（※複数回答）

問５　あなたがお住まいの地域において、避難勧告が発令されたことを知っていましたか。

知っていた	376
知らなかった	142
無回答	20

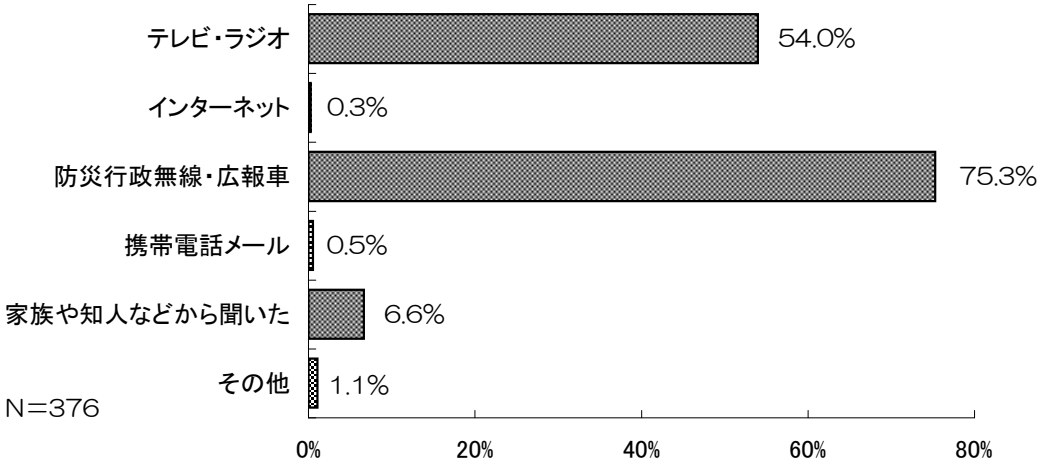
N＝538



○調査回答者（５３８人）のうち、６９．９％（３７６人）が自身の地域に「避難勧告」が発令されたことを知っていた。

問６　知っていたと回答された方にお聞きします。あなたは何によって避難勧告を知りましたか。

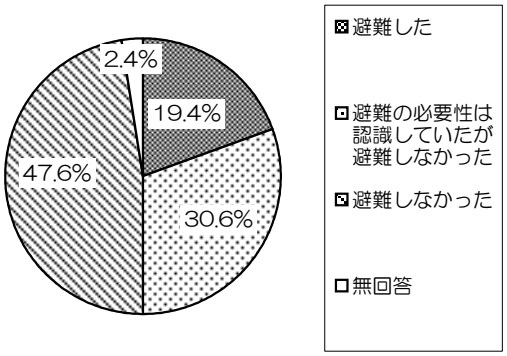
テレビ・ラジオ	203
インターネット	1
防災行政無線・広報車	283
携帯電話メール	2
家族や知人などから聞いた	25
その他	4



○「避難勧告」を知り得た手段は、「防災行政無線・広報車」が７５．３％（２８３人）と最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が５４．０％（２０３人）であり、自治体からの広報で知り得た者が多かったが、調査回答者全体からすると約半数程度（５２．６％）であった。（※複数回答）

問７　津波警報又は避難勧告が発表された後、避難（外出を含む）をしましたか。

避難した	73
避難の必要性は認識していたが避難しなかった	115
避難しなかった	179
無回答	9

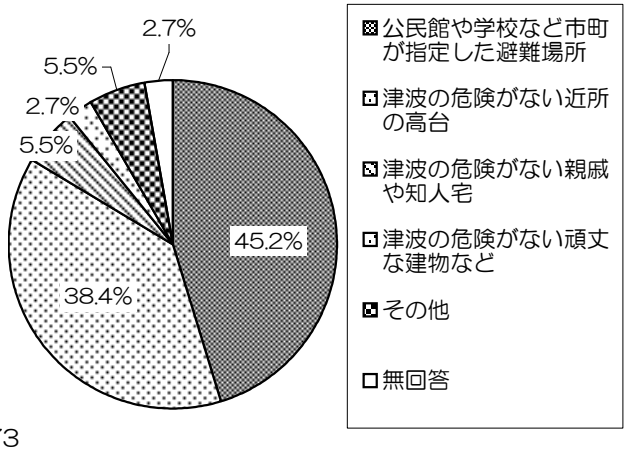


N=376

○「避難勧告」が発令されたことを知っていた者（３７６人）のうち、避難した者は１９．４％（７３人）であり、調査回答者全体では１３．６％であった。

問８　あなたは、どこへ避難しましたか。

公民館や学校など市町が指定した避難場所	33
津波の危険がない近所の高台	28
津波の危険がない親戚や知人宅	4
津波の危険がない頑丈な建物など	2
その他	4
無回答	2

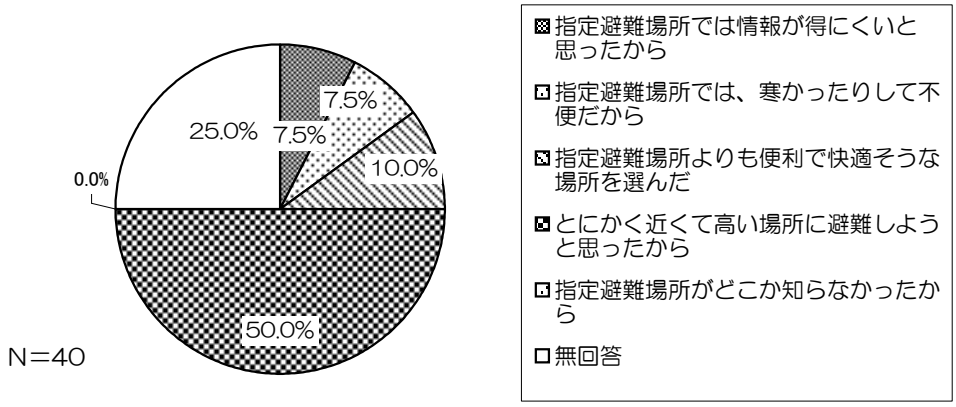


N＝73

○避難した者（７３人）のうち、避難先として「公民館や学校など市町が指定した避難場所」が４５．２％（３３人）と最も多く、次いで３８．４％（２８人）が「津波の危険がない近所の高台」という結果であった。

問９　市町が指定する避難場所に避難しなかった理由について、あてはまるものを選んで下さい。

指定避難場所では情報が得にくいと思ったから	3
指定避難場所では、寒かったりして不便だから	3
指定避難場所よりも便利で快適そうな場所を選んだ	4
とにかく近くて高い場所に避難しようと思ったから	20
指定避難場所がどこか知らなかったから	0
無回答	10

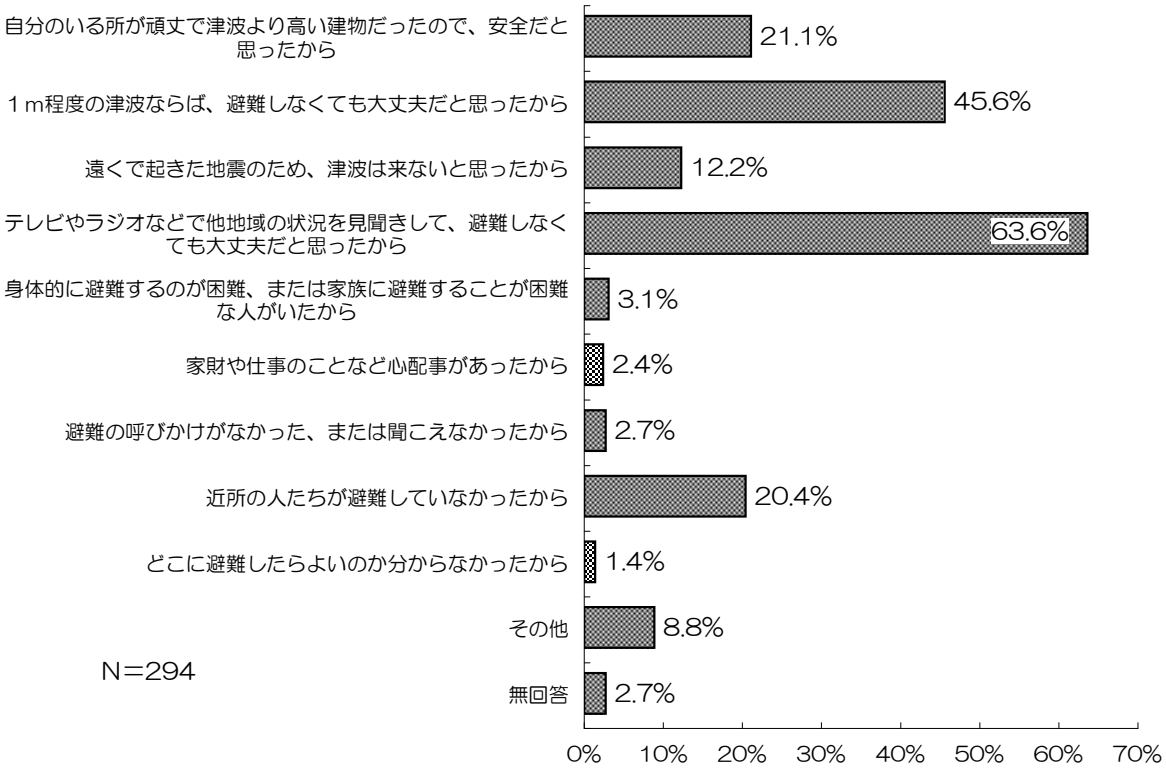


N＝40

○市町が指定する避難場所に避難しなかった者（４０人）のうち、半数（２０人）の者が「とにかく近くて高い場所に避難しようと思ったから」と回答しており、「指定避難場所がどこか知らなかったから」という者はいなかった。

問１０ なぜ避難しなかったのか、その理由を選んで下さい。（あてはまるものを最大３つまで）

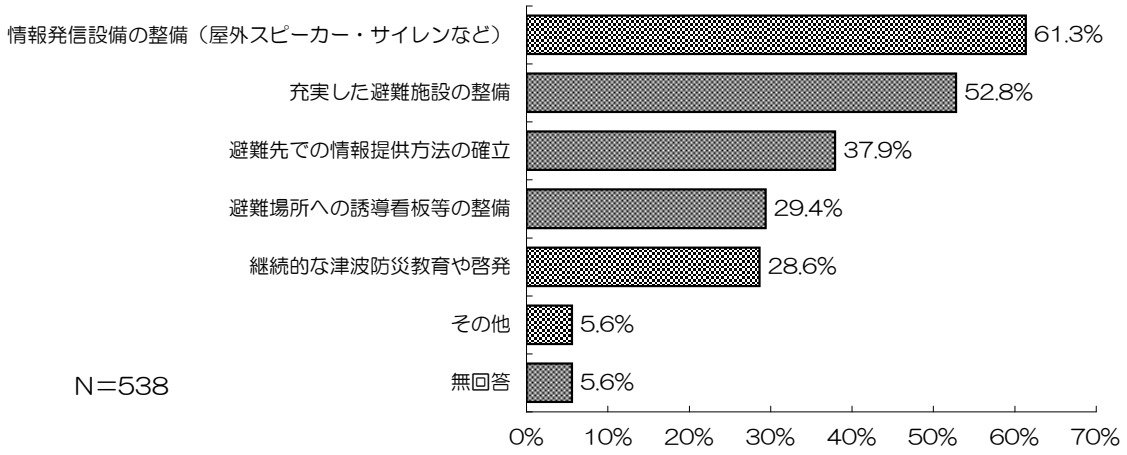
自分のいる所が頑丈で津波より高い建物だったので、安全だと思ったから	62
１ｍ程度の津波ならば、避難しなくても大丈夫だと思ったから	134
遠くで起きた地震のため、津波は来ないと思ったから	36
テレビやラジオなどで他地域の状況を見聞きして、避難しなくても大丈夫だと思ったから	187
身体的に避難するのが困難、または家族に避難することが困難な人がいたから	9
家財や仕事のことなど心配事があったから	7
避難の呼びかけがなかった、または聞こえなかったから	8
近所の人たちが避難していなかったから	60
どこに避難したらよいのか分からなかったから	4
その他	26
無回答	8



○「避難勧告」が発令されたことを知っていても避難しなかった者（２９４人）の避難しなかった理由は、「テレビやラジオなどで他地域の状況を見聞きして、避難しなくても大丈夫だと思ったから」が６３．６％（１８７人）と最も多く、次いで「１ｍ程度の津波ならば、避難しなくても大丈夫だと思ったから」が４５．６％（１３４人）、その他「自分のいる所が頑丈で津波より高い建物だったので、安全だと思ったから」が２１．１％（６２人）、「近所の人たちが避難していなかったから」が２０．４％（６０人）、「遠くで起きた地震のため、津波は来ないと思ったから」が１２．２％（３６人）などであった。（※複数回答）

問１１　今後、発生が予想されている東南海・南海地震などによる津波にそなえて、行政に期待する津波防災対策等についてお選び下さい。（いくつでも）

情報発信設備の整備（屋外スピーカー・サイレンなど）	330
充実した避難施設の整備	284
避難先での情報提供方法の確立	204
避難場所への誘導看板等の整備	158
継続的な津波防災教育や啓発	154
その他	30
無回答	30



○調査回答者（５３８人）のうち、「情報発信設備の整備（屋外スピーカー・サイレンなど）」が６１．３％（３３０人）と最も多く、次いで「充実した避難施設の整備」が５２．８％（２８４人）、「避難先での情報提供方法の確立」が３７．９％（２０４人）、「避難場所への誘導看板等の整備」が２９．４％（１５８人）、「継続的な津波防災教育や啓発」が２８．６％（１５４人）という結果であった。（※複数回答）